

掩体壕の詳細調査を

熊本・旧陸軍跡市長に要望書

旧陸軍健軍飛行場 ついて、「くまもと戦(熊本市東区)跡地近 争遺跡・文化遺産ネットワーク」代表の高谷トワーク(63)らが生さん(63)らが詳細



な発掘調査を求める要望書を熊本市の西一史市長に提出した。

掩体壕は地権者で女子ゴルフ、古閑美保さん(35)の父宏二郎さん

(56)が見つけて高谷さんに調査を依頼。保存状態が良いことが分かった。遺構を覆っていた竹林を伐採すると、土塁が姿を現した。掩体壕は横幅31・2メートル

奥行き34・9メートル、最大高3・1メートルで、旧陸軍の小型機用掩体壕とみられる。

高谷さんらは、近代遺構の学術的価値があるとして、記録保存に向けた詳細調査を熊本市に求めた。

高谷さんは「掩体壕からはくぎや柱跡と思われる複数の溝が見つかっており、本格的な屋根が設けられていた可能性がある」と調査の重要性を訴え、大西市長は「戦争の記憶を後世に伝えるためにも、現地を見た上で調査できるか検討したい」と応えた。

【城島勇人】